

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 かの廂に敷かれたりし物は、さながらありや。(大和物語)

(訳) あの廂の間に敷かれていた物は、「」があるか。

- ①そのまま ②そんなに ③どのくらい ④どこでも

1 「」

2 知らぬ人の中にうち臥して、つゆまどろまれず。(更級日記)

(訳) 見知らぬ人の間に横になって、「」眠ることができ「」。

- ①ゆつくりくない ②ほとんどくない ③少しもくない ④早くくない

2 「」

3 かねてのあらまし、皆違ひゆくかと思ふに、おのづから違はぬこともあれば、いよいよ物は定めがたし。(徒然草)

(訳) 前もつての計画が、すべてはずれていくかと思うと、「」はずれないこともあるので、いよいよ物は定めがたい。

- ①偶然に ②すぐに ③結果として ④逆に

3 「」

4 今はなき人なれば、かばかりのことも忘れがたし。(徒然草)

(訳) 今はこの世にいない人なので、「」のことも忘れがたい。

- ①少し ②この程度 ③たくさん ④一つ一つ

4 「」

5 息はとく絶え果てにけり。(源氏物語)

(訳) 息は「」絶え果ててしまった。

- ①たった今 ②すでに ③ついさっき ④突然

5 「」

6 おのれは、とてもかくても経なむ。(大和物語)

(訳) 私は、「」きっと過ごすことができよう。

- ①なんとかすれば ②どのようにしても ③なぜか ④そのうち

6 「」

7 今は逃ぐとも、よも逃がさじ。(宇治拾遺物語)

(訳) 今はもう逃げようとしても、(相手は私を)「」逃がさ「」。

- ①今度こそくはないだろう ②わざとくはないだろう ③当然くはないだろう ④まさかくはないだろう

7 「」

8 いっしか梅咲かなむ。(更級日記)

(訳) 「」梅が咲いてほしい。

- ①必ず ②いつか ③もっと ④早く

8 「」

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 この法師のみにあらず、世間の人、なべてこのことあり。(徒然草)

(訳) この僧だけではなく、世間の人には、「」このようなことがある。

9 「」

10 まことにさにこそ候ひけれ。(徒然草)

(訳) 本当に「」でございました。

10 「」

11 散ればこそいとど桜はめでたけれ(伊勢物語)

(訳) (ただでさえ美しい上に)散るからこそ「」桜はすばらしい。

11 「」

12 立て籠めたる所の戸、すなはちただ開きに開きぬ。(竹取物語)

(訳) (かくや姫を)閉じ込めてあった所の戸は、「」ただもうさっと開いてしまった。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語883訂版 P 134 S P 143

- 1 「①」
- 2 「③」
- 3 「①」
- 4 「②」
- 5 「②」
- 6 「②」
- 7 「④」
- 8 「④」
- 9 「総じて」
- 10 「そう」
- 11 「いっそう」
- 12 「すぐに」